



謹賀新年



業界の発展に邁進します 本年もよろしくお願ひ申し上げます

あけましておめでとうございます。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年は、ポスト五輪に向けて旅行業界の真価も問われる年です。新しい年を迎え、副会長三氏と各支部長に今年の展望と抱負を語っていただきました。

海外旅行のいっそうの高まりに努力

菊間潤吾副会長
海外旅行推進委員会委員長

念願であった海外旅行
2000万人
時代が実現する
見通しとなった



たことで、その中での旅行会社の必要性、存在感をいかに示していけるか、そして確固たる経営基盤につなげていけるかが、問われる段階となりました。

今年には東京で半世紀以上に上ぶりにオリンピック・パラリンピックが開催されることになり、海外への関心がいっそう高まる時です。

1964年、東京オリンピックの年に海外旅行が自由化され、人々の目が一気に海外に向いたように、オリパラに参加する様々な国の文化や観光事情を紹介し、国民の皆さんに多くの国々を訪れてみたいと思ってもらうことも旅行業界の役割であるうと考えています。

今回のオリパラを契機にいっそうの海外旅行の高まりが実現できるようすすめていきます。

新しい「旅のカタチ」にチャレンジを

坂巻伸昭副会長
国内旅行推進委員会委員長

旅行業界における変化の流れは近年、一気に加速してきています。



OTAや新IIT運賃など業界の変化だけでなく、自然災害や海外情勢なども影響を及ぼし、どう対応していくのかというターニングポイントを迎えています。

もう一度、「人を動かす」のではなく「心を動かす」という旅行業としての原点に立ち返らなければなりません。

半世紀前に東京で開催されたオリンピック・パラリンピックは、社会インフラの整備などハード面での変化が注目されましたが、今回のオリパラでは、心の変革などソフト面での変化が求められており、原点回帰を通じた旅行業の変革にも波及するはずで

2020年は、新しい「旅のカタチ」を実現することにチャレンジしていきたいと考えています。

訪日旅行の高次元化への「元年」に

堀坂明弘副会長
訪日旅行推進委員会委員長

いよいよ今年は、インバウンド4000万人時代が現実のものとなり



ます。官民が一体となつてこれまで取組んできた成果であり、関係者の方々には頭が下がる思いです。

一方で、これを過性のものではなく、アフター2020にも持続的に発展をさせていく努力も必要です。昨年のラグビーW杯開催に伴う地方の賑わい、欧米豪を始めたとした滞在日数や消費額は、我々が進むべき次のステップへの方向性を示唆していると思われま

特定市場に依存せず多様化を進め、青少年交流の活性化や富裕層を対象としたプロモーションなど、市場の分析とセグメントを深掘した新たなアプローチも大切です。パラリンピック開催を機にバリアフリー化を進める等、訪日旅行の高次元化に向けた取り組みを一層強化して参ります。

JATA地方支部・支部長より新年のご挨拶

オリ・パラ開催で世界にアピール

北海道支部 笹本潤二支部長

今年、4月の民族共生象徴空間・ウポポイのオープンと6月の



新千歳空港を皮切りに道内7空港の民営化が実施されます。8月には東京オリ・パラでのサッカー・マラソン・競歩の開催を通じ、札幌を世界にアピール。さらなる北海道の躍進と繁栄、業界発展の為に地域の観光振興に尽力します。

ツーウェイツーリズムの発展に尽力

東北支部 吉田圭吾支部長

去年は、仙台国際空港のバンコク便、大連便の再就航をはじめ増



便が相次ぎ東北各地の玄関口が大きく拡大しました。これにあわせてタイに訪問団を組織するなど交流人口拡大への取組を進めています。JATA東北支部は、関係機関と連携し今後のインバウンド拡大にあわせたツーウェイツーリズムの発展に尽力します。

都市部と地方部の連携で人流を創造

関東支部 松本博支部長

いよいよ東京オリ・パライヤーの到来です。ラグビーワールドカップ同



様に多くの外国人が来日し、日本の魅力を感じていただけることでしょう。このチャンスを最大限に活かし、都市部と地方部の連携を深めて新たな人流を創造し、官民連携により広域観光振興に取り組んでまいります。

2ヶタ成長の継続に向けて邁進

中部支部 中津功支部長

中部地域の昨年は、イン・アウトともに前年比で2ヶタの伸びでし



た。本年は会員各社の皆様と連携し、昨年オープンした中部国際空港第2ターミナルや愛知県国際展示場などを最大限に活用し、今以上に地域交流を含めた旅行需要創出の取り組み強化に努め、2ヶタ成長の継続実現に向けて邁進してまいります。

世界的な観光地域「関西」を目指して

関西支部 宇田川雄彦支部長

去年は「G20大阪サミット」や「ツーリズムEXPOジャパン



2019大阪・関西」など地元開催のイベントや、百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録で関西地域が観光を浴びた二年でした。本年は、昨年以上に観光客誘致の取り組みを進め、「2025大阪・関西万博」やIR実現に向け邁進してまいります。

「リアル・エージェント」の真価を発揮

中四国支部 船場誠吾支部長

2020年は、世界中の人々が東京オリ・パラを機



に日本の各地を訪れると期待されます。中四国でも「サイクリングしまなみ2020」や「せとうち広島ステイネーションキャンペーン」をはじめ、着地型観光の充実に向けた準備が進んでいます。タビマエとタビナカで真価が問われる「リアル・エージェント」として、精進していく所存です。

時流に乗り、大躍進を目指す

九州支部 山本善則支部長

去年は新元号「令和」の典故となった大宰府政



庁跡が躍注目を浴び、秋のラグビーワールドカップなどで国内外から大勢の観光客が九州を訪れました。今年には東京オリ・パラや「ツーリズムEXPOジャパン」2020 沖縄」が開催されますので、行政や関係機関と連携し業界の発展に向けて邁進してまいります。

沖縄の新たな魅力を世界に発信

沖縄支部 與座嘉博支部長

昨年10月の首里城火災では沖



縄県民が悲しみと失意にある中、暖かいご支援と激励を頂き感謝申し上げます。沖縄支部は地域と共に、首里城早期再建に向けて力を尽くします。今春の那覇空港第2滑走路の完成に続き、10月には沖縄リゾート展が開催されます。沖縄の新たな魅力を世界に発信してまいります。